

訪米阻止のチラシ

第2号

# 佐藤訪米 安保自動延長の最終的意志統一を阻止せよ！

トロッキヤーストの「実力阻止」

民青の議会主義批判

実力阻止「秘密交渉反対、抗議」  
「左右の日和見主義を排し組織規律に基く隊例をねまわせよ

マ佐藤詔葉は併のた行なわれよ？

11月17～26日の佐藤訪米の企画、それは7年佐藤詔葉以来の日米間交渉を先の晏知一口ジャース会談を不まえて、最終的に意志統一しようとする所にある。その内容は安保自動延長であり沖縄を「核抜き本土並」の名の下に核付き自由化用返還する事である。

マ安保の「自動延長」・沖縄の「核抜き本土並」返還の意味するもの。

「自動延長」の内実のオロ安宿条約の裏貧弱的侵略的宏化である。それは松江の一曰内因における佐藤の「日露時に日本はアジア安定に主役をはたこ」米はむしろ側面協力も日本はアジアの開拓途上の日の自立を援助する責任がある。ところが発言に見られる如く米帝の相対的地位の低下とベトナムにおける敗北によるアジアからの後退にとつてかわる堅日本をアジアにおける「安全保障」の盟主として登場するための軍事力強化である。

第一に歓迎する世風情セの下で、フリーハンド一年の予告で条約を再検討・廢棄を求める）を獲得しようとする日帝の企図である。

第二に全民的課題で斗かわれようとしている70年斗争の鉢先をそらそうといつ政府独占の意圖である（「70年9月には日本を離れてないよ」とする眞田幹事長発言）にアジア侵略・機械化の要石としての沖縄の核付自由使用返還策である。このことこそ政府独占は、民

大衆の攻撃をうす形で、「核抜き、本土並」のペールの下に、アメリカとの「裏ひ協議の彈力的運用」も通常基地の自衛使用と沖縄に派遣される自衛隊が「核に接近」することも含めて正に核の下での本土の沖縄化を狙っているのである。

マ「対米秘密交渉反対、佐藤訪米の日会解散、佐

ト訪米反対」抗議しは何故誤りか？  
このスローガンの第一の誤りは、佐藤詔葉の意図が明白であるにもかかわらず、それを單に手続々上所にある。夜中にこうそりやうと自廻室々とやろうと泥棒は泥棒である。更に、佐藤詔葉を認めた上で、その内容が問題だ！とか、あるいは抗議とか言つてみた所でそれは何う意味をもたぬ右翼白和見主義者ではない。

マ「佐藤訪米実力阻止」はなせ誤りか？

我々は奉サオニ、それが現裏面で「実力斗争」の表れをこうしつつも、本質的には政府独占に対する現実的政治的力関係を何うか進んで得ない事を指摘しなければならない。更に、中核・赤軍派に代表される如く全ての斗争と街頭における抗辯隊との物理的衝突のみにわり少しばかりの事自体無意味であるばかりでなく、それが政府独占の弾圧体制強化によるばかりでなく、それが政府独占の弾圧体制強化に絶好の口実を与える。学生の大衆的決起を妨げ、労働戦を分断し、11・13ストライキを中心に全民的斗争体制をねまさんとする民主勢力に敵対するものとして厳しく糾弾されなければならぬ。

佐藤訪米阻止 学生

大行糸

△我々は佐藤訪米阻止をいかに打つ

我々は「左・右の日智見玉を排し、生産吳のストライキ斗争（ハーバンスト）」でもって決起した組織された労働者に、我々自身當面の生産性において大衆的な決起を勝ちと組織された学友の強固な隊列で応え、組織された労働の共斗を遂行しなければならぬ。それを通じて安保廢棄・佐藤内閣を打倒する全民主勢力による政治的力関係を構築すると、これこそが佐藤訪米阻止斗争の任務であり、年代への展望を切り開く斗いである。

正しい課題（沖縄基地撤去即時全面返還・安保廢棄・佐藤内閣打倒）と基本戦術に基く巨大な共斗によって、地方斗争の圧倒的高揚とそれに支えられた中央斗争をも含めて総團結め。

学友諸君、佐藤訪米阻止斗争に  
決起せよ！